

# 『週刊台湾通信』

## 第8846号(1999年12月16日発行)

### 主な内容

#### 【李登輝総統 日本へのメッセージ】

第11回「アジア・オープン・フォーラム」日本側代表団との会見  
《ダン・レポートの台湾企業信用調査—第54回・華碩電腦 ASUSTEK》

リンクがはってある記事は、抄録(編集後記は全文)をご覧になれます。

#### 【日本関係】

- ◎ 今年の対日赤字は過去最高、財政部が予測
- ◎ 中華映管、PDP用パネルで三菱電機と提携
- ◎ 奇晶、富士通から17.4インチTFT-LCDを受注
- ◎ 日台経済会議、対等関係に
- ◎ アジア・オープンフォーラム、台南で開催

#### 【経 済】

- ◎ 来年の経済成長目標、6.1%に確定
- ◎ 11月の卸売物価指数の年増率は1.16%
- ◎ 台湾元、今後1年間は値上がり傾向
- ◎ 公務員、来年の賃上げはなし
- ◎ 第8ナフサ、嘉義県布袋に建設が決定
- ◎ 建興CD-ROM、フィリップスに権利金2%
- ◎ モデム、ISDNの生産が伸び悩む
- ◎ 華冠が3周波数使用の携帯電話生産へ
- ◎ 11月の輸出額、過去最高を更新
- ◎ 7業種の排水新基準、処理コスト10倍に

#### 【大陸関係】

- ◎ 宏碁(エイサー)、広東省中山に広碁科技の設立を計画

#### 【国際関係】

- ◎ エイサー・グループ、米ナスダック上場を計画
- ◎ 王志刚部長、台湾のWTO加盟への支持要請

#### 【政 治】

- ◎ 宋楚瑜候補の息子に1億元の不明金
- ◎ 政府公文書の公開法が可決

#### 【生活社会】

- ◎ 第2外国語、92%の大学生が歓迎
- ◎ 台湾の親子交流、7割はテレビ頼り

#### <編集後記>

SUBSCRIBE

購読のご案内

BACK

バックナンバー一覧

HOME

ホームページへ

【特集】  
李登輝総統  
日本へのメッセージ

第11回「アジア・オープン・フォーラム」  
日本側代表団との会見

今年で11回目になる「アジア・オープン・フォーラム」は、日本と台湾との関係において極めて重要な会議である。この会議は、李登輝総統と日本の東京外国語大学の中嶋嶺雄学長が、両国間の交流を進めるために始めた学術会議である。しかし学術会議とは言っても、この会議には学者・専門家だけでなく両国の政界や財界の関係者も出席し、極めて政治的意義の色濃い会議となっている。

また、李登輝総統はこの会議に向けて、毎年、重要な発言を行っており、この会議を非常に重視していることが分かる。

毎年、日本と台湾で交互に開かれているこの会議、今年は12月4、5日に台南市で行われた。そして6日には、日本からの参加者一行は総統府で李登輝総統と1時間半にわたって会見した。この会見における李登輝総統の発言は、重要なメッセージを日本に送っている。会見の趣旨を以下に紹介する。

アジア・オープン・フォーラムは来年、第12回を長野県松本市で開催し終了する予定だ。その時には総統を退任している李登輝総統は、今回の会談で参加に意欲を示している。総統に就任してから、大陸側の反対で訪日していない。大陸側は、総統退任後の訪日にも反対を表明している。李登輝総統の訪日は実現するのか、注目されるところだ。(取材:早田健文)

☆☆☆

李登輝総統:今回、第11回アジア・オープン・フォーラムが台南で開催された。自分は出席できなかったが、滞りなく行われたと聞いてうれしく思う。今日、こうして皆さんとお会いできて特にうれしい。

まずこの場を借りて、アジア・オープン・フォーラムの日本側代表団が友人として9月21日の地震に1000万円の義援金を贈ってくださったこと、そして多くの日本の人たちによる台湾の震災援助、また台湾に来られた救援隊に感謝したい。

アジア・オープン・フォーラムは11回にわたり、これまで日台の多くの学者・専門家が参加した。台湾と日本の地域安定に確かな貢献があった。双方の学者・専門家の交流は、互いの理解を深め、協力の空間をより大きく広げた。

中華民国台湾の存在は、国際政治においてユニークな事例だ。中華民国の発展は軽視できるものではない。台湾は、日本の安全とアジア太平洋の安定にとって意義ある存在だ。このことを認識し、我々と手を携えていただきたい。そしてアジア太平洋の安定、繁栄にともに努力していきたい。

今年、9月21日の台湾中部で起きた地震は、人命、財産に大きな被害を及ぼした。日本の各界からすみやかな援助をいただき、我々は深く感動している。

これは、台湾と日本との間の友情が、試練にも耐えることができるというあかしだ。日本各界からの関心と支援に感謝している。台湾と日本の両国の更なる協力で、より良い明日を切り開くことができると信じている。

【アジア・オープン・フォーラムの成果について】

李登輝総統:アジア・オープン・フォーラムは11年間にわたって開かれてきた。この11年間の努力の成果によって、双方の議論が相当にかみ合うようになってきた。

第1回の会議の時はなかなか議論がかみ合わず、それぞれが互いに勝手なことを言い合っ



ただけだ。それが大きく変わったのだ。

台湾と日本の関係はこんなにも密接になった。日本にとって台湾は、単なる日本の南に浮かぶ島ではなく、日本に連なる生命線の一環だと認識されるようになっていく。

#### 【中国大陸との関係について】

李登輝総統：3年前の選挙の際、私は「新中原」という概念を提起した。中原文化、つまり中華文化は揚子江流域の文化だ。中国大陸の2500年という歴史を持つ文化には問題が多く、ルネサンスを必要としている。

私は4、5年前から「易経」を研究している。クリスチャンのくせになぜ「易経」なのだといわれることもある。しかし、「易経」に現れている古代中国人の考え方の中には、人間らしい面がある。それを再認識する必要がある。

中国大陸は党派が多く、人々が互いに争っている。中国人の性格は、考えること、言うこと、やることがみんなバラバラだ。これを統一しなければ、良い文化にはならない。

台湾からその改良を始めるとするのが、「新中原」の考え方だ。これに対して台湾は海洋国家であり、海洋文化だ。だから台湾は今、生き生きとしている。

台湾の発展を見ると、台湾にやって来た祖先たちは、自由を求めるために台湾に来たのだ。それはイギリスやアイルランドから、自由を求める人々がアメリカに渡ったのと同じだ。

祖先たちは台湾に来て、とても苦労した。オランダも来るし、スペインも来るし、日本も来た。

日本社会は法律の基礎の上に成り立っている社会だ。日本時代の50年間を経て、台湾は中国大陸とは大きく異なるものとなった。戦後、二二八事件(1947年に発生した台湾民衆と国民党政府の衝突)があったが、これは生活と考え方のギャップが原因だと言える。台湾は大陸から独立していたのである。本当に大陸と関係したのは戦後の5年ほどに過ぎない。

この台湾から新しい文化を広めようというのである。政治、経済の裏には文化があることを認識しなければならない。生活の道理、基礎という問題だ。

台湾は「新中原」として、大陸に影響を及ぼすことができる。少しずつ、100年かかってもどれだけかかっても、やっていくのだ。共産主義から資本主義に変わったとしても、人間の考え方は変わらない。だからこそ日本も困っているし、アメリカも頭が痛い。困るのは考え方のギャップだ。

私は台湾と大陸の関係を「特殊な国と国の関係」と位置付けたが、ここで言いたかったのは、げんこつが大きいだけではだめだということだ。げんこつが大きければ必ず勝つとは限らない。

国家は人民の考え方が基礎だ。合理性を持ち、法制を基礎とし、互いに関心を持ち合うことが大切だ。2500年の間、中国にはそれがなかった。それを考えるための仕事に力を尽さなければならぬと思っている。

#### 【来年、松本で開催されるアジア・オープンフォーラムへの出席】

李登輝総統：台湾の政治は大きな変化をとげた。特に1991年の憲法修正、臨時条項の廃止、大陸政策の変化は大切だ。

私が総統になったとき、大変に寂しかった。時には秘書とたった2人だけだったこともある。マスコミからも批判された。しかし私はやらなければならないと思った。台湾のアイデンティティーを作らなければ。今でも20～30%の反対はあるが、それもあり形成されてきた。

私は誠をもって人民に対し、私が人民を愛する気持ちを伝え、それが最後に発揮できればいいと考えた。マスコミに批判されてもいい、しっかりやろうと。

たとえば石臼の真中には芯があるが、臼を回すと芯は磨り減って小さくなる。私は人民のために、この石臼の芯になってもいいと思ったのだ。

マスコミに気を使いすぎたり、マスコミを利用したり、自分を良く書いてもらおうとする人がいるが、私はそのようなことをしない。

来年、アジア・オープンフォーラムが長野県松本市で開催される。松本へ行ったら私はこうしたことを話そうと思っている。

#### 【台湾の政治改革について】

李登輝総統：私も、鉄でできた人間ではない。感情もあるし、寂しさを感じる時もある。やろうとしてもできない時は、我慢できないこともある。

政治改革、大陸問題と、今、考えてみると、「よくやった李登輝」という気持ちだ。夜はよく眠れない。この状態をどのようにうまく持っていくか、一生懸命に考えるからだ。

第1回の選挙のとき、「8人の大老」という人たちがいて、言いたいことを言っていた。そういうこともあった。

先日、マラウイの大統領が台湾に来たとき、私に「デモクラシーのコストは？」と聞いたので、こう答えた。「デモクラシー・ウィザウト・コスト」と。コストをかけずに、ただでやったというわけだ。

私が最も心配したのは経済への影響だ。経済を維持しながら改革を進めるということに最も気を使った。

7月9日に私は「特殊な国と国の関係」という考え方を提起した。これは、2年間、あらゆる国際法や法律を研究した結果なのだ。これが最もコストがかからない方法だという結論に達した。しかしそれでも、やはり気に掛かる。

人間は弱い存在だ。しかし考える輩でもある。そうした気持ちでやらないといけない。ただ、自分で自分のことを考えると、かわいそうになることもある。

今話したようなことは、日本語を使う時にしか話せない。普通の言葉で話しても、わかってもらえるかどうかかわからない。

台湾の新聞だけを見て、それが台湾の実情だと思ってはならない。同じテーマについて違った意見がある。日本であれば、事実が尊重され、違った新聞であってもあまり異なったことは害がない。これが台湾では、1つの事実が180度も違ってくる。しかし裏の裏はたくさんあるのだ。

#### 【京都での学生生活で考えたこと】

李登輝総統：京都にいた時間は実際には短い。大部分、軍隊にいたからだ。軍隊に入る前、先生や学生の友人がいた。また農学部の実習で大阪に行ったこともあった。

軍隊には2年間いた。この2年間、配属されたのは千葉の高射砲学校だった。その間、千葉が爆撃を受けたことがあった。私たちは死傷者の救助のために働いた。

この時の経験は、今回の地震でも役立っている。死傷者がいても動じないでいることができたのは、この経験があったからだ。あの爆撃の時の光景は、今でも目を閉じると浮かんでくる。あれと比べたら、地震はまだ落ち着いて対処することができる。

高射砲学校時代、私は人間の生と死についてずいぶん勉強した。クリスチャン以外は死について考えることがあまりないようだ。クリスチャンには復活があるからだが、特に仏教や儒教にはそれがない。

私は歩兵として、最も苦しい状況の中で生と死の問題を考えようと思った。そこで歩兵を志願した。しかし大学生だからと、高射砲部隊に配属された。

私はゲーテの「ファウスト」が好きだ。この本は当時、外部では禁書だったが、部隊の図書館では自由に読むことができた。部隊に所属していた時、本を読む機会が多く、たくさん勉強した。苦しかったが、私個人としてはいい生活だったと思う。

こうしたことは台湾の人は誰も知らない。私は話したことがない。

学校時代、印象に残っているのは食糧不足と本を買うための長い列だ。また、京都の歴史的な場所を、地図を見ながら歩き回った。中学時代、『古事記』から始まって、日本の歴史はずいぶん勉強していたから関心があった。

退役してから6カ月、再び京都に戻って学校に通った。その後、台湾に帰ってきた。台湾の国造りのためにがんばろうと、帰って来たのだ。

#### 【抗日戦争勝利記念碑が台北市中山堂前に落成したこと】

李登輝総統：私は知らない。私の仕事ではない。大陸で抗日に参加した人たちがやったことだろう。

連戦・副総統が除幕式に参加したというのは、彼の父親が留学先の日本から大陸に渡って抗日に参加したからだろう。

とにかく私はまったく知らない。

#### 【総統選挙における連戦候補の状況】

李登輝総統：連戦がピンチ？ そのように見えるのだろうか。だが選挙は毎日変わるものだ。

世論調査の結果は、その裏を知らなければならぬ。台湾の人民は意外にはしこいところがある。聞く相手が答えてほしい通りに答えるのだが、本心は別のところにあることが多い。

台湾の人々は、台湾の現在、政治改革、路線は変わってほしくないと考えている。経済もいい状態にある。

しかし調査をする人は危機感があると言いたいのだから、調査を受ける側も危機感があるように答えるのだ。

しかし昨年、台北市長選挙では、一晩にして支持率が逆転した。一晩で7万から8万もの票の差があったのだ。

表面的にはどうとでも言えるが、裏は分からないというのが現状だ。

#### 【李登輝総統の健康問題】

李登輝総統：少し休養した方がいいようだ。

地震が起きた9月21日から10月21日まで、この1カ月間の私の行動は、「救災日記」として発表している。これを読むと分かるが、ほとんど毎日、被災地に向かっている。また、毎日、報告を出させて、毎晩、寝る前にそれに目を通し、次の日に訪れる場所を決めていた。

そのため少し過労になったようだ。運動を減らすように医者から勧められている。台北から台南に行く飛行機は無理と説得され、アジア・オープンフォーラムの開会式への出席はあきらめた。身体の状態は悪いというほどではないと思う。気を付けた方がいいということだ。ただ、医者も判断を間違えることはあるだろう。

地震の時は、1日6時間も寝ていない。これが1カ月も続いた。どのようにして被災者を恐怖から逃れさせるか、恐怖から逃れたらどうするか、そのための対策を考え続けたのだ。ただ、さきほど語った昔の経験や神戸の地震の資料などが役に立った。昔の経験があったから、これは処理できると思った。

例えば、倒壊家屋の数。1晩で10万戸も統計数字が減ったことがある。これを修正しておかないと、将来の貸付に問題が起きるからだ。調査をやり直すと、確かに家が倒壊していないのに慰問金を受け取っていたケースが出てきた。現在、数字はほぼ確定している。



倒壊建物は全壊・半壊合わせて8万戸、死者は2433人だ。ただし、慰問金は98%しか受け取られていない。2%は受取人の所在不明が原因だ。  
対策はぼうぼうまわっている。その証拠に、台湾では地震による自殺者が出なかった。自殺者は2人出たが、直接の原因は地震以外のものだった。

#### 【在任中の訪日はあるか】

李登輝総統：無理してやらない方がいいだろう。自然な形でうまくいけばと思っている。  
私は1985年にコーネル大学にもどった。学長が熱心で、国務省との関係も良かったからだ。コーネルでは、私が人民のことをいつも思っている、という内容のスピーチを行った。  
USオープンというが、ゴルフのように政治でもそうである。しかしこれによって、台湾が存在していることの事実を示したと、いやがらせを受けることになった。日本にも迷惑がかからないようにしなければならない。

お互いに分かっていればそれでいいのではないか。外務省も頭が痛いだろうから。  
憲法9条、日の丸・君が代と、日本も変わってきている。日本が自分で自分のことを決められる状況にもどつつある。そうなれば、日本も台湾も主権国家である。

日本も独立国家として、自分のことを自分で決められるようになればいいと思っている。

#### 【若い世代へのバトンタッチ】

李登輝総統：アジア・オープンフォーラムは11回に及び、日本と台湾の間を密接にすることに貢献した。こうした努力によって、互いに気持ちが分かるようになってきた。日米安保のガイドラインの台湾有事に関する問題でもそうだ。

次のステージをどうするか。合意ができあがったら、さらに勉強して細かいところまで入りこまなければならない。議論が戦略から戦術に踏み込めば、よい効果が上がるだろう。

東アジアの安全については、すでに合意ができていると思う。ただ言わないだけで、アジア・オープンフォーラムはその意味で成功した。将来は別の形で続けていければと思う。 ※

#### アジア・オープンフォーラム

##### 第11回台南会議

##### 李登輝総統の祝辞

12月4日 台南市議会にて 連戦・副総統代読

議長、貴賓各位、ご在席の皆様。

本日、第11回「アジア・オープン・フォーラム」台南会議の開幕式にお招きいただき、皆様とお会いできましたことを嬉しく存じます。アジアの平和と協力および繁栄の促進に対する皆様の積極的なご貢献は敬服に値するものであり、この場をお借りして皆様に敬意を表します。

9月21日、台湾で発生した百年来未曾有の大地震は、生命と財産に大きな損害をもたらしました。台湾震災に対する日本朝野の高度なご関心および即刻のご援助は、われわれ台湾の国民にとってこの上もなく心暖まるものでした。これは日華交流に対する皆様方の長期間にわたるご尽力の具体的な成果であると、受け止めております。ここで、中華民国の政府および国民を代表して、皆様に心からお礼を申し上げます。

冷戦終結後、国際社会の国家安全保障に対する見方がかなり変わってきているように思われます。その中でも最も顕著なことは、対立を放棄して協力的な態度で地域の安全を護持するようにならなってきたことであります。アジア・太平洋経済協力会議とアセアン地域フォーラムが相継いで成立し、公式のまたは非公式の多角的対話を通して、アジア・太平洋諸国は国際協力強化の必要を認めるようになりました。特に1997年、タイで発生した東南アジアの金融危機は、大多数の国家をして国際経済協力の重要性をより一層理解させたようであります。しかしながら、ここで強調したいのは、このような新しい協力関係の下で、アメリカ主導の双務的な軍事同盟、例えば日米安保体系は弱められていないのみならず、かえって強化される趨勢にあり、伝統的な安全保障上の協力関係が依然としてかなり重要であることを示しています。

先進工業諸国の経験から見て、われわれは、人的資源の発展、情報科学技術、ハードの建設および組織管理によって構成されている「科学技術安全」が伝統的な国力要因に重大な変化をもたらしたことを見てとることができます。国家的な科学上の発明、新しい技術の創造および科学技術の実用能力は、すでに「ソフトな国力」の一部になっております。それゆえ、科学技術の発展も国防と地域安全保障に新しい要素を注入していることは注視に値します。

新しい国際情勢と安全保障の意義に鑑み、アジア・太平洋諸国はすべて、新しい思惟と積極的な行為によって平和競争と協力光栄の関係が発展できることを希望しております。しかしながら、遺憾なのは、中共当局が依然としてイデオロギーの束縛から脱却することができず、古めかしい覇権主義を抱き続けていて、アジア・太平洋地域の安全にとっての潜在的脅威になっていることであります。

中華民国は、台湾海峡の安定はアジア・太平洋地域の平和にとって非常に重要であることを認識し、一貫して現実的な政策で兩岸関係を推し進め、アジア・太平洋地域の安全保障に寄与することを希望しております。われわれは、1991年に武力によって兩岸関係を解決する政策を放棄することを宣言し、相継いで兩岸交流の制限を緩和し、兩岸の互惠、協力の基礎を固めようとしてまいりました。中共は今でも好意的な反応を見せてはいませんが、しかし、われわれはこれからも

引続き兩岸関係の安定的発展と台湾海峡の緊迫情勢の緩和のために全力を傾注する所存であります。

台湾海峡兩岸の分立と分治は、歴史的、法律的な事実であります。兩岸ともこの事実を尊重し、善意をもって対等に話し合いをしてこそ、政治的なギャップを乗り越え、今後の平和・民主統一にプラスとなる関係を共に発展させることができるのであります。それゆえ、われわれは「特殊な国と国との関係」を打ち出し、中華民国の台湾における存在および兩岸関係の位置付けをはっきり説明し、その基礎の下で逐次兩岸関係の相互信頼を打ち立て、双方が利益を得る環境を作り、台湾海峡の平和を維持すると同時にアジア・太平洋地域の安定を保障できることを希望しているのであります。

アジアに目を向けてみますと、民主化の潮流が澎湃として発展してはいますが、しかしながら社会主義政権と権威主義思想は依然として残存しており、安全協力の対話がありながら、また一方では主権紛争と軍事衝突の陰影が残されています。中華民国が困難な国内外の環境の下で障害を取り除き、民主を実現し、人権の向上を計って大きな成就をとげましたことは皆様ご承知の通りであります。今後、われわれは更にアジア・太平洋諸国と広範な協力を進め、シーレーンの安全と経済貿易の自由な往来を護持し、アジア・太平洋地域の繁栄と安定に進んで力を致すつもりであります。

日華両国は地理的に隣り合わせにあり、発展程度が接近していて、彼我の利益を増進し、アジアの安定を強化するためには、経済、政治と国際関係等の面において、共に協力していくべき多くの空間が存在しています。これは正しく、「アジア・オープン・フォーラム」成立以来の努力目標でもあります。皆様に期待したいことは、多年來の蓄積してきた良き基礎の上で、これからも引続き相協力して、日華両国の共同発展およびアジア・太平洋地域の平和と安定のためにより大きな貢献をなされることであります。

最後に、会議の成功を祈念して、皆様のご健康とご多幸をお祈りして、私の祝辞とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。 ※

---

## 今年の対日赤字は過去最高、財政部が予測

財政部の発表によると、今年1～11月の台湾の対日貿易赤字は166億6000万ドルに達した。今年全年の対日赤字は昨年の176億8000万ドルを超えて、過去最高を更新する見込み。

財政部の許国忠統計長が7日に語ったところによると、今年上期に日本で内需が増加したため、財政部と経済部では、今年、台湾の対日輸出の好転は対日輸入好転を上回る勢いを見せ、対日赤字が減少すると見込んでいた。今年の対日赤字について財政部は169億ドル、経済部では164億ドルと予想していた。しかし、最近数カ月における台湾の国内景気好転にともない対日輸入が増加し、これが対日赤字の増加につながった。

今年10月の対日赤字は過去最高の21億ドル、11月は18億4000万ドルに達した。

---

## 中華映管、PDP用パネルで三菱電機と提携

中華映管が60億～70億元を投資してPDP(プラズマディスプレイ)のパネル生産を始めることを決定した。工場は来年末までに完成の予定。初期の年産量は5000～1万枚で、将来は第2、第3の生産ラインを設置することになっている。

中華映管によると、同社はすでにエンジニアを三菱電機の工場に派遣し、46インチPDP用パネルの製造技術の習得に当たらせている。46インチPDP用パネルは、台湾で生産されるPDP用パネルの中で最大サイズのもの。

中華映管は、大同会社が投資、設立した企業で、今年の営業収入は730億元に達する見込み。来年初めに株を店頭公開する。

中華映管は世界最大のCRTメーカーとしての地位を確立した後、2年前に三菱電機からTFT-LCD用パネルの製造技術を導入した。現在、月産3万枚に達している。

---

## 奇品、富士通から17.4インチTFT-LCDを受注



## 〈編集後記〉

○李登輝総統の会見。私は今回で2回目になる。会見場に入ると、まず中国語で形式的な挨拶。その後はまったく日本語の世界である。話の中にしきりに「台湾の人たちには話したことがない」という言葉が出てきて気になった。日本語でなければ話せないことがある、というのである。李登輝総統と同年配の「本省人」の方たちには、こうしたタイプの人たちが多く、この人たちはそろって日本語が達者で、日本をひいきするのに反して、決まって中国が大嫌いである。そして、対立があってはいけないと言いながら、言葉の端々に「外省人」に対する憎しみがにじみ出るのである。李登輝総統は元首として深い考慮があると思うのだが、この年代の本省人の人たちとは、感情的にやはり同じ土台の上にあるのではないかと思ってしまう。歴史的背景を考えると、心情的には理解できる。ただ、この世代の人たちとばかり接して、それが台湾のすべてであると思ってしまうのは間違いだ。台湾人の心情は極めて複雑であり、それが複雑な台湾社会を形成している。だからこそこの世代の人たちは、おそらく自分たちを最も理解してくれるはずの日本人に対して訴えかけようとするのだろう。しかし「日本語でなければ話せないことがある」と言われて、日本人がいい気になっていたのでは困る。ただ、李登輝総統のように誠実に日本に対して語ってくれる指導者が、今後の台湾に出てくるかどうか。総統選挙での有力3候補は、すべて日本語ができない人たちだ。

○宋楚瑜氏の息子の口座に巨額の出所不明金があることが暴露された。これまで常に30%を超えていた支持率が、一気に低下。大きな打撃となっている。宋楚瑜支持の『聯合報』がスキャンダル発覚後の12月10日に行った世論調査で、宋楚瑜氏の支持率は24%(前回11月30日は32%)に、陳水扁氏23%(前回19%)、連戦氏23%(前回22%)と、ほぼ一線に並んだ。他のメディアが行った調査では、宋楚瑜氏はすでに2位に落ちたと出ている。これほどの急落とは、選挙は分からないものである。連戦氏ピンチについてどう思うか質問された李登輝総統、「そう思うの」と簡単に受け流していた。選挙は毎日変わるもの、と相当な自信。また、自分はマスコミに媚びる人間ではないと語り、暗に宋楚瑜氏を批判した。ともかくこの選挙、ますますおもしろくなってきた。

○先週、民進党の黄信介・元主席が、かつて李登輝総統の大家さんだったという話を書いたところ、台湾の智恵袋として敬愛している年配本省人の方から電話をいただいた。李登輝総統と黄信介さんの奥さん同士が学校の同窓だというのである。いずれも台北第3高女で、李登輝総統の奥さんの方が1期ほど上だったが、台湾人同士で親しい関係だったという。「同じ台湾人だからどうということはない。台湾では政治より友情、人情が優先ですよ」という。台湾人社会はみんなつながっているというのである。これは自らが白色テロを経験しての言葉だ。自分を助けてくれた人の多くが、敵対するはずの国民党関係者だったのだという。この方いわく、民進党を大きくしたのも李登輝総統。黄信介さんとの関係は紹介した通り。他の多くの民進党幹部とも、台湾大学の先輩後輩の関係にあたるのだ。(早)

【通達翻訳出版有限公司】

台湾通信取材コーディネート業務  
ご案内

このたび台湾通信では新部門を設けました。テレビや雑誌などの台湾での取材にあたって、取材先との連絡、移動手段の手配、カメラマン・器材の手配、通訳などお世話をさせていただきます。

この新業務のため、この分野で経験のあるスタッフが加わりました。どうぞご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

台湾通信  
台北市基隆路2段166号14F—2  
taitsu@ms17.hinet.net  
TEL (02) 2377-8473 FAX (02) 2377-6471  
コーディネート部門担当 劉

このウェブサイト(URL: <http://www.iris.dti.ne.jp/taitsu/>)において公開されているドキュメント及びデータは、特に明示されている場合を除き、その著作権は通達翻訳出版にあります。

Copyright(C) 通達翻訳出版『台湾通信』 <taitsu@ms17.hinet.net>